



学校だより

佐渡市立両津吉井小学校

令和3年2月1日

<2月号>

「よき使い手」を育てる

校長 後藤 修治

1月の学習参観には、寒い中多くの保護者の皆様からご来校いただきありがとうございました。5、6年生は、佐渡から約450km離れた鳥取県在住の今度珠美（いまだ たまみ）先生とリモートでつなぎメディアコントロールに関する授業を行いました。メディアを介した友だちとの良好な人間関係作りについて学ぶことができました。

さて、今年度両津中学校区小中学校では、「健康プロジェクト」の一環として、小中連携して「メディアコントロール」に焦点を当てた事業を推進してきました。本プロジェクトのアドバイザーとして、鳥取県情報モラルエドゥケーターの今度先生からご協力いただいています。

授業参観で5、6年生が行った授業は、本プロジェクトの活動の一つです。その他の学年についても、これまで担任によるメディアコントロールに関する授業を実施してきました。

また、保護者向けの今度先生によるミニ講演会もその一つです。Web上でも公開されておりましたのでご覧いただけたかと思えます。

さて、情報化社会の進展により、家庭や学校の中で情報通信機器に触れる機会が多くなってきました。学校においては、新型コロナウイルスの影響も加わり、加速度的に情報通信機器の導入が進んでいきそうです。今年度中には、児童一人一台タブレットの導入も予定されています。情報通信機器を効果的に活用した授業づくりに学校としても努めていかなければならないと思っています。それに伴い、子どもへの正しい情報通信機器の使い方（メディアコントロール）の指導もしっかりと行っていかなければなりません。



そのためには、学校と家庭との連携は不可欠になります。大人が、情報通信機器に対する正しい知識を持ち、子どもたちが安全に安心して使える環境づくりと約束づくりを行っていかねばなりません。

2学期に行った実態調査（アンケート）では、「お家の人とゲーム機、インターネット利用のルールを決めていますか？」の質問に対し、「決めていない」または「決めているが守れない」と答えた両津吉井小児童は、中学年で54%（中学校区小学校平均42%）高学年で34%（同平均34%）でした。また、低学年53%（保護者回答 同平均39%）でした。

アドバイザーの今度先生は『メディアは危険がいっぱい。おそろしい物。』という印象だけを子どもたちに与えるのではなく、これからの時代、ICT機器やネットがあることを前提にそのよさと問題点の両面をとらえ、『よき使い手』を育てることが大切である。」とおっしゃっていました。

学校と家庭とが連携し、情報通信機器の「よき使い手」を育てていきましょう。